

種名	ア キ ア カ ネ <u>Sympetrum frequens</u> 
分類	昆虫綱トンボ目トンボ科
俗称	一般的に「赤トンボ」の名前で親しまれている。東北ではトウガラシトンボ、カミナリトンボなどと呼ばれる。
形態的な特徴	アキアカネは体長 40mm(腹長 23～31mm、後翅長 26～34mm)ほどの大きさ。未熟なうちは両種の雌雄とも橙黄色の地に黒色の斑紋がある。成熟するとオスは赤みを増すが、アキアカネはおもに腹部のみが色づく。 幼虫の体長は、アキアカネは 17～20mm(頭幅 6.5～8mm)ほどである。
分布	北海道、本州、四国、九州に分布する。アキアカネは北方に多い傾向があり、東北日本ではとくに多く、九州南部では少ない。
繁殖行動	成虫は、両種とも6～12月頃まで見られる。アキアカネは羽化後しばしば大集団となって山地に大移動し、秋に再び平地に戻ってくる。成熟して山から下りてきたアキアカネは、産卵に適した浅い水たまりを見つけると近くの草むらなどで交尾をし、連結したまま水たまりの水面や水際にメスの腹部を打ちつける打水産卵あるいは打泥産卵をおこなう。秋に産卵された卵は、卵のまま越冬し、翌春、孵化して幼虫となる。
生息場所	平地から低山地の草丈のあまり高くない挺水植物の繁茂する池沼や湿地、水田、溝などに生息する。しばしば、池やプールなどの人工的な環境でも見られる。アキアカネは、とくに明るい開放的な空間を好み、ごく浅い水域に産卵するという特性があることから、平地の水田地域が非常に適した環境となっている。水田地域だけでなく、市街地の学校のプールや人工的な小水域などの環境で生息できることから、都市部でもごく普通に見られ、個体数も比較的多い。
食性	
生息環境への配慮事項	アキアカネの卵は乾燥に強く、冬に水田の水がなくなるとも越冬できる。したがって、農地整備による乾田化の影響は比較的少ないと思われる。平地の水田地域、溜め池など浅く開放的な水域を好むため、水田や農業用溜め池の維持・保全が重要である。
引用文献： http://www.maff.go.jp/nouson/mizu_midori/menu/main.html	